

タイにおける雇用環境の分析と大学での人材育成
 一般調査報告書

要旨

企業の海外展開においては、日本とは異なる雇用環境を理解した上で、必要な人材を採用・育成していくことが不可欠です。そこで今回のレポートでは、タイの雇用環境に注目することとし、①タイの雇用環境におけるマクロ的な情報と、②新型コロナウイルスの感染拡大がタイの雇用環境に与えたインパクトを整理するとともに、③日本の様々な機関の協力に基づき、タイにおけるものづくり人材の育成に挑戦している泰日工業大学の取組を報告します。

1. タイの雇用環境におけるマクロ分析

はじめに、タイにおける人口及び年齢構成の推移を確認します(図1)。一般的に若年層が豊富なイメージの東南アジアにおいて、タイは周辺国よりも40年程度早い段階で人口ボーナスを終えており、生産年齢人口は2020年をピークとして減少が始まります。グラフの形状は、少子高齢化社会を迎えている日本と酷似しており、生産年齢人口が2045年には60%を下回る予測となっている一方で、65才以上の高齢者の割合が急速に高まり、2050年には30%を超える予想となっています。

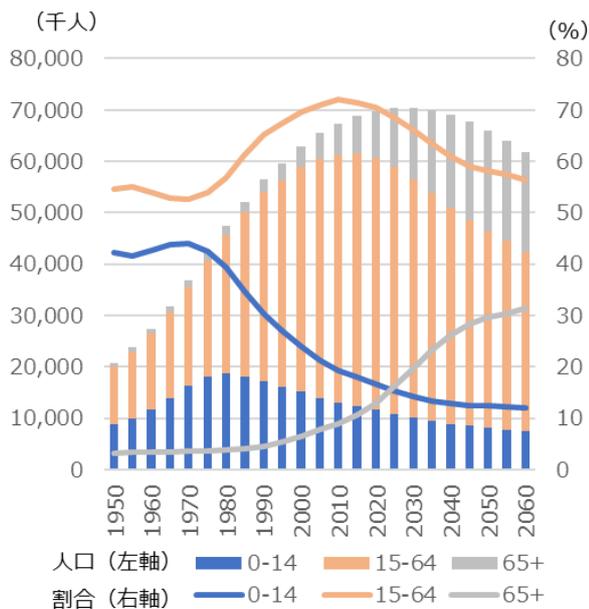


図1 タイの人口における年齢構成の推移
 出所:国際連合 2025年以降は中位推計値を採用

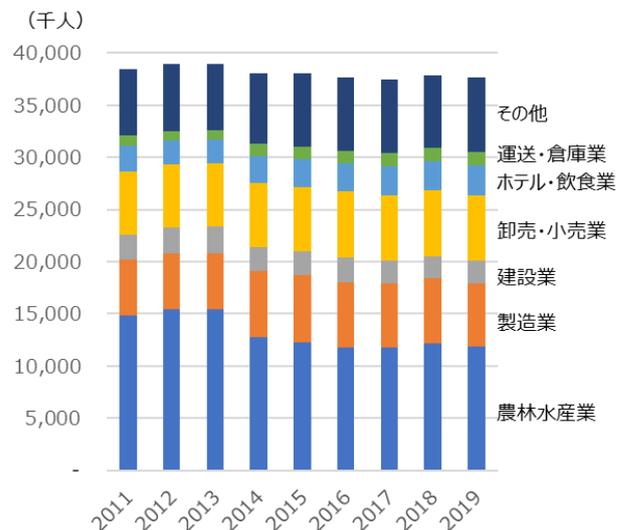


図2 タイにおける業種別就労人口の推移
 出所:タイ中央銀行

次に、業種別就労人口の推移を図2に示します。農林水産業の割合は、近年低下しつつあるものの、未だ30%を超えています。地方の農業は近代化が遅れており、労働生産性が低いこともあり、GDP全体に対する1次産業の貢献度合いは1割弱となっています。製造業や広義のサービス業に従事する労働者は増えていますが、これら産業がバンコクや東部経済回廊と称されるバンコクの東側3県(以下、EECと記載)に集積している一方で、人口が多い東北部において農業以外の産業が育成されていない地理的経済格差があることから、抜本的な改善は期待しづらい現実があります。

表1にタイにおける失業率の推移をまとめました。失

業率は 1%以下の年が多く、人手不足感の強さが見て取れます。労働者の立場では、求人が多い環境下で、賃金や労働時間など勤務条件の良い職場を求めることから、ジョブホッピングが多くなります。企業の人事担当者からも、「コロナ前は転職が盛んで定着率が悪かった。」という意見が多く聞かれます。また、人手不足を解消するため、ミャンマー、ラオス、カンボジアなど周辺国から外国人労働者を多数受け入れており、その人数は推定 400 万人とも言われています。

表 1 タイにおける失業率の推移

	2011	2013	2015	2017	2019
就労人口(千人)	38,465	38,907	38,016	37,458	37,613
失業者数(千人)	264	284	341	451	373
失業率(%)	0.68	0.72	0.88	1.18	0.98

出所:タイ中央銀行

表 2 でタイにおける地域別最低賃金の推移を示します。タイの経済成長、政府の政策、人手不足感を反映して引き上げが続いています。2013 年 1 月には、インラック政権の選挙公約を踏まえ、タイ全土の 1 日当たり最低賃金が全国一律で 300 バーツとなりました。その後も全都県で上昇傾向は続いており、日系企業の工業団地が集積する EEC のラヨン県やチョンブリ県、バンコク都等で高い傾向にあります。特に EEC 地域では、大手企業が多くの人材を確保するため、福利厚生を手厚くしていることもあり、最低賃金に加えて日額按分で 100THB 以上の追加手当を支給しないと採用が難しい状況もあるとのことでした。

10 年間における最低賃金の上昇率(福利厚生を除く)を比較しても、バンコク都で 1.54 倍、ラヨン県で 1.77 倍、北部のパヤオ県では 2.01 倍となっています。同期間の愛知県におけるそれが 1.24 倍であることから、タイの賃金上昇が大きいことが実感されます。

表 2 タイにおける地域別最低賃金の推移

	2011.01	2012.04	2013.01	2017.01	2018.04	2020.01
バンコク	215	300	300	310	325	331
ラヨン	189	264	300	308	330	335
チョンブリ	196	273	300	308	330	336
チェンマイ	180	251	300	308	320	325
パヤオ	159	222	300	305	315	320

出所:タイ労働省、タイ工業団地公社など

2. コロナ禍による雇用環境への影響

コロナ禍でタイの雇用環境は急速に悪化しています。図 3 に失業手当申請者の推移を示します。雇用保険の加入者数が 1,100 万人前後ですので、就労人口に対する加入率が 3 分の 1 以下であることを念頭に数字を見る必要があります。3 月頃までは 15 万人前後で安定していた申請者数は、4 月以降急増し、6 月時点で 395,693 人、前年同月比で 120.4%に達しました。その内、会社都合の解雇件数は全体の 3 分の 1 を占める 145,747 人で、前年同月比で 461.9%となりました。労働者保護の傾向が強いタイでは、会社都合の解雇は稀ですので、当該数値からコロナ禍の影響の大きさが見て取れます。

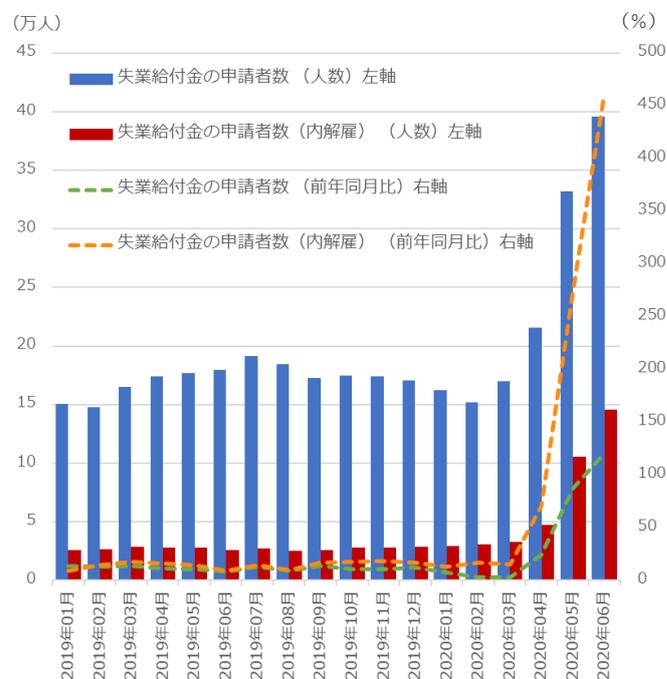


図 3 タイにおける失業給付金の申請者数の推移

出所:タイ労働省

業種別の失業傾向を確認すると、農林水産業を除く全業種で会社都合の失業にともなう申請件数が増加しています。特に飲食・宿泊業では、申請数が 43,157 件 対前年同月比 330.1%の急増となっており、そのうち会社都合は 2,547.2%に達しています(表 3)。これは市中のホテルが長期間にわたり休業していた街の様子と合致する結果となっています(7 月 1 日付け報告書参照)。タイ政府は、観光産業を維持するため、コロナ対策で先送りにしたソンクラーン休暇を使って連休を設けた上で、国内観光を促進するキャンペーンを行っています。パタヤなどバンコク近郊の観光地は賑わ

いが戻りつつありますが、外国人観光客を受け入れられる目処は立っておらず、特にプーケットなど南部地域では観光業界の厳しい雇用情勢は継続するものと思われます。観光産業からの人材流出が進む中、日系企業の中には、日本語能力の高い人材を雇用するチャンスと捉える企業もあるようです。

当センターが訪問する愛知県企業の多くは製造業の皆様で、自動車メーカーの4月以降の生産調整の影響を受け、残業の削減、ラインの一部休業、週休3日の導入といった雇用調整を行っているという声を多く聞きます。派遣契約の見直しなどを通じて従業員数の削減を実施せざるを得ないケースもあるようです。日系企業と比較して資金力に乏しいローカル企業では、さらに雇用の継続が厳しいことも推測されます。

表3 タイにおける失業給付金の業種別申請者数

	申請者数	前年同月比	うち会社都合	前年同月比
農林水産業	1,946	120.4	379	65.5
製造業	90,702	95.1	33,640	323.9
鉱工業等	2,420	85.3	687	297.1
建設業	17,070	125.0	4,565	363.0
小売・卸売業	58,441	96.7	16,065	488.5
飲食・宿泊業	43,157	330.1	21,654	2,547.2
その他サービス業	84,721	111.9	26,690	578.8
その他	97,236	126.2	42,067	360.5
合計	395,693	120.4	145,747	461.9

出所：タイ労働省 2020年6月実績(8月発表)

3. 泰日工業大学のものづくり人材育成

泰日工業大学(Thai-Nichi Institute of Technology 以下 TNI と記載)は、タイと日本の友好とタイ産業界の人材育成を目的として設置された泰日経済技術振興協会を母体として2007年に設立された私立大学です。ものづくり人材の育成と、日系企業との協力によるタイ日共創プラットフォームの構築を理念に、産業界で活躍できる人材を育成されています。今回、TNIのBandhit学長、山本Lecturer、逆井Project Coordinatorからお話をお聞きする機会を得ましたので、その人材育成に関する取組をご紹介します。

Q.1 TNIの概要を教えてください。

TNIには、工学部、情報技術学部、経営学部の3学部20課程と修士5課程があり、2020年度現在の在学生は約3,800人、2007年度からの累計卒業生は現在

までに約6,500人となっています。履修課程の特徴としては以下の点が挙げられます。

- ①タイ産業界で需要の高い分野(特に自動車、電機電子、ICT、生産技術、日本の経営)を重視。
- ②日本のものづくりに直結する実務的かつ実践的な技術と知識を兼ね備えた人材を育成。
- ③産業界、タイ国内外の日本機関との強い協力関係を活かして、現場のインターンシップ教育を重視。
- ④日本語及び英語でのコミュニケーション能力を有する人材を育成。

教職員数は300人強で、日本への留学経験を有する教員も多く在籍しています。

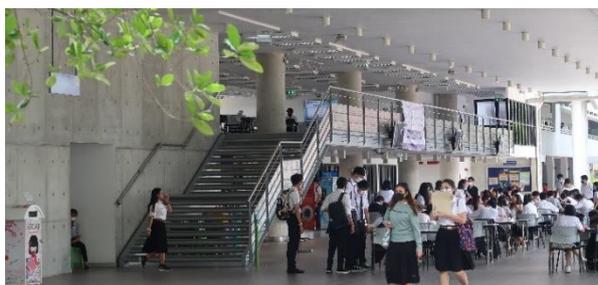


図4 TNI学内の様子

開放的な学食では多くの学生が昼食をとったり談笑したりする姿が見られた。タイの大学では学生服を着用することが普通とのこと。

Q.2 インターンシップの取組を教えてください。

インターンシップを通じた企業内での実践的な経験や日本企業内の文化に触れることは、学生の職業観に大きな影響を与えるものと考えています。TNIでは、多くの学生が卒業研究の一環で産学連携インターンシップに取り組んでいます。製造業、IT、商業など日系企業を中心とする400社以上の企業と連携し、学生の専門分野に合った現場でのインターンシップを行えるよう、コーディネートしています。

技術系学科の学生は、4か月間にわたり企業の中で生産性向上、品質向上、各種改善などのプロジェクト

に取り組めます。事務系学科の学生は2か月間のインターンシップで会社全体の業務を把握し、レポートを執筆することが求められます。また、一部の学生は、日本の自治体や企業の協力を得て、日本でのインターンシップにも挑戦しています。

Q.3 就職に関する取組を教えてください。

タイでは大学卒業後、実家に帰る、海外遊学する、軍役につく、仏教の修行を行うといった様々な経験を積んだ後に就職することが多い点が日本と異なる特徴です。TNIでは卒業生の就職状況を継続してフォローしており、希望者は100%の就職が達成できています。

就職に繋がる取組として、既出のインターンシップに加え、例年1月頃に学内でジョブフェアを開催し、企業と学生の出会いの場となっています。150社以上の企業が出展しており、日系企業の割合が高くなっています。中には日本から直接参加される企業もあり、採用への熱意が感じられます。授業の中でも、複数の日系企業が事業内容を紹介する連続講座を設けるなど、企業と学生の接点を増やすように努めています。

日本語能力と実務経験を積んだ学生の多くはタイと日本の架け橋として活躍しており、例えば工学部の就職実績では、日系及び日系取引企業への就職が半数を超えています。また、百数十人の卒業生は愛知県を含む日本の各地で働いています。

Q.4 特徴的な課外活動を教えてください。

ロボコン大会、クリエイター大会など、ものづくりや産業に関連した国内外の競技大会に積極的に参加しています。昨年度は4大会で優勝、その他8種類の競技で準優勝の成績を収めました。

例えば、タイ自動車技術会主催の学生フォーミュラ大会ではEV部門で7チーム中1位の成績に輝きました。マシンの開発はもちろんのこと、スポンサー企業の募集も学生自らが行うことで、貴重な社会経験を積むことが出来ています。

Q.5 コロナ禍への対策を教えてください。

TNIでは、ロックダウン期間の3月下旬から5月にかけては夏休み期間であったため、幸いにして大きな影

響を受けることなく6月中旬より通常のスケジュールで授業を開始しています。授業開始前に、学生全員にアンケートを実施し、通学かオンラインの希望を確認しました。8割方の学生は通学を希望したため、教室での授業を基本としつつも、授業内容はオンラインでも同時配信し、通学に抵抗感がある学生にも対応しています。一部の夏季集中講座などでは、完全オンラインの授業を実施しました。その際は、参加者数を少人数にするなど、双方向性のある授業となるよう工夫しました。もちろん、校内に入る際のサーモグラフィによる検温や、教室内で着座の間隔をあけるなど、基本的な感染症対策も徹底しています。



図5 学生フォーミュラ大会のマシン

ガソリンエンジン車とEVの両方を製作。7月に行われたバンコク国際モーターショーでも展示された。

4. おわりに

着任して5カ月を振り返ると、タイの方々と一緒にお仕事をしたり、様々なバックグラウンドの駐在員の方とお会いしたりして視野が広がることに加え、初めての海外勤務や在宅勤務の導入もあり、働き方、キャリア、仕事の意味などについて人生で一番悩み、考えさせられる期間だったと思います。

今回訪問させていただいたTNIで学生の就職傾向を伺った際の「卒業後、別の経験をしてから就職する例が多いので、短期的な景気動向に影響を受ける新卒の就職率ではなく、卒業後数年間の就職実績をフ

オローしています。」というコメントや、観光産業から別の産業への転職活動が活発になっていることなどから、多様性と環境変化を受け入れて、しなやかにキャリアを醸成するタイのスタイルに惹かれる部分もありました。

幸いにして、タイでは国内の感染状況が落ち着いており、7月のバンコク国際モーターショーに続き、様々な展示会やイベントも実施されるようになってきました。8月8日(土)から16日(日)にかけては、一村一品運動の展示会 OTOP2020 が開催されましたので、我が家も最終日に会場を訪問してみました。各地域の PR や伝統工芸品の物販、ローカルフードが楽しめる飲食コーナーが充実しており、会場内はとても賑わっていました。観光産業の減速でタイ国内の地域経済も大きなダメージを受けているため、このようなイベントを通じて少しでも還元できればとの思いで、タオルや果物などを多めに購入してきました。

コロナ前は当たり前だった風景に久しぶりに出会えて懐かしいような、ソーシャルディスタンスが確保できず怖いような不思議な感覚でした。残念ながら、愛知県内で開催される異業種交流展示会「メッセナゴヤ2020」や当センターもサポートを予定していたインドネシアでの工作機械等の展示会「MANUFACTURING INDONESIA」もオフライン実施の見送りが発表されました。会場の臨場感や味覚を楽しむなど、イベント現場でなくては伝わらない魅力が多いのは言うまでもありません。国毎にコロナ禍の状況が異なる中、大規模イベントが従来通り実施されるようになる日を願うばかりです。



図6 OTOP2020の様子

大型展示場に多くのブースが設けられ、地域の名産品を買い求める人が詰め掛けていた。飲食コーナーでは座席の確保が難しく、立ったままローカルフードを楽しむ姿が多く見られた。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。